

本講義資料のご利用にあたって

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

著作権が東京大学の教員等に帰属する著作物については、非営利かつ教育的な目的に限り再利用することができます。

ご利用にあたっては、以下のクレジットを明記してください。

クレジット：

UTokyo Online Education 学術フロンティア講義 2022 日比健人



東京大学教育学部附属中等教育学校 保健体育科の取り組み

東京大学教育学部附属中等教育学校 保健体育科 教諭
日比 健人

新学習指導要領

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成に向けては、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツとの多様な関わり方を状況に応じて選択し、卒業後も継続して実践することができるようにすることが重要である。

体力や技能の程度及び性別の違い等にかかわらず、仲間とともに学ぶ体験は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた重要な学習の機会であることから、原則として男女共習で学習を行うことが求められる。 その際、心身ともに発達が著しい時期であることを踏まえ、運動種目によってはペアやグループの編成時に配慮したり、健康・安全に関する指導の充実を図ったりするなど、指導方法の工夫を図ることが大切である。

【目指す生徒像】

多様な他者ととともに生涯スポーツを實踐できる生徒
自ら選び取って健康的な生活を営む生徒

<探究>

- 自分のからだと対話をし、自己理解を深める
- 技能を高め、新たな動きを見つける
- スポーツ文化の創造を積極的に取り入れる
- 適切な手段・方法で技能の向上や戦術の洗練などに必要な情報を収集する
- 身体能力や体力の向上
- 他（の生徒）の考えや意見をよく聴く
- 互いの動きの分析比較し理想の動きに近づけようとする
- 自分とは違う考えや意見に関心を持ち、多面的にものごとを考える
- 出来ないことに耐え、どのようにすれば出来るのか、根気強く取り組む
- わかったこと、自分の考えをチームメイトに分かりやすく伝える

<市民性>

- 専門性はなくても、関わり、自分の考えや意見を持ち表明しようとする（アマチュアリズム）
- チームの作戦や戦術を計画的に実践しようとする
- 批判的・論理的に思考しようとする
- 新しいルールや創造をしようとする
- 他者のからだに触れあい関わっていかうとする
- 多様性（ひと・もの・こと）を許容する
- 多様な他者を認めた上で、他者の意見を聴き自分の考えや意見を伝える中で一緒に考えたり、活動したりしようとする
- 医療リテラシー
- 安全に活動できるよう、互いに配慮し声をかけ合い、場の設定をしようとする

<協働>

- 共に運動の時空間を楽しむ
- 共に技や勝敗を競い合う
- 互いのやり方や動きを見合って評価しあう
- 他（の生徒）の考えや意見をよく聴く
- 考えや意見の（違いをおもしろがり）違いは違いとして受け入れる
- 考えや意見の違いを理解した上で、創作活動を考え合う
- 論理的に考えや意見を述べあい、戦術や作戦をたてる
- 道具や空間、時間を工夫して活用する
- 円滑に試合や大会運営を行う
- 安全に活動する力

東大附属の体育の授業形態

2000年～2013年 中等教育学校への移行

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
男女共習 クラス別	男女別 学年一斉開講	男女別 学年一斉開講	男女別 (一部男女共習) 学年一斉開講 2単位	男女共習 学年一斉開講 3単位	男女共習 学年一斉開講 2単位

2014年～現在

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
男女共習 クラス別	男女別 クラス別	男女別 クラス別	男女別 (一部男女共習) 学年一斉開講 2単位	男女共習 学年一斉開講 3単位	男女共習 学年一斉開講 2単位

授業者の雑感

1年生

- 小学校からの延長線上ということで特に抵抗なく授業に取り組む姿が見られる
- 恥ずかしがることなく、互いに意見を交換したり、考えたり、練習したりする姿が見られる
- 発達発育によって大きな差はまだ見られないが、2～3月ごろになると少しその差が見られることもある

<生徒の感想など>

- 小学校の体育とは違い、みんなでさまざまなことに取り組むことができ楽しかった
- クラスの授業では話すことのない友達と話す機会ができて、クラスの仲が深まった

授業者の雑感

5年生

- 2～4年生までは別習（一部共習）なので、最初は戸惑いがある様子がうかがえる
- しかし、時数を重ねるにつれ、その戸惑いは解消され、互いに協力しながら学習を進めることができる

<生徒の感想など>

- 男女合同になったことで、得意とするものがより多様になり今まで以上に「適材適所」が求められるようになったと感じた。
- 球技は男子の方が力があるし、何もかも動きが素早いので、力になれるのか不安はあったが、チーム全員での声掛けや守備練のおかげで、B型球技及び団体での球技が好きになった。
- 男女混合だったため、試合が成り立ったし、本気で動くことができた。

授業者の雑感

6年生

- みんなで仲良く種目に取り組む様子がうかがえる。戦術を考えるときなどは輪になって話す。
- お互いに気づいたことを素直に話すことができる。

<生徒の感想など>

- 前に授業でバドミントンをしたときは勝敗が自らの動きにかかっているシングルスの方が楽しいと思っていましたが、今回はペアと声を掛け合いながら二人で協力して点を重ねるダブルスの方が楽しく感じました。
- 全員が楽しめるルール作りをすることで、年齢による運動能力の差、障がいの有無などに関わらず、同じ環境でみんながスポーツするには有利不利が入らない全員が活躍できるルールが必要である。多様性のある社会とはこういうことなのだろうと思った。

スポーツ科学の授業

- 「生涯スポーツを実践するリーダーを育てる」が目標
- 今年度の受講生は19名（男：11名、女：8名）
- やったことがないスポーツに挑戦する！シリーズ第3回
「スポーツ雪合戦」に挑戦！

スポーツ科学の授業

- スポーツ雪合戦とは、相手陣地に侵入し、フラッグを取るか、相手に玉を当てて全員をアウトにするかで勝敗が決まる競技である。雪があるわけではないので、今回は玉入れの玉を用いて競技を行う。
- 中央から攻めていくのか、サイドから攻めていくのか、相手をどう騙してフラッグを取るのかなどの様々な戦術が考えられるものである。また、球を補給する役割や、相手陣地に攻める役割など、複数の役割も存在し、これをうまく調整することも勝利へのキーポイントの1つである。
- 全員が初めてスポーツ雪合戦に取り組むという状況では、その能力や技能にはほぼ差がない。他の競技では能力差や技能差がどうしても存在してしまう。しかしながら、今回のようなほぼ能力や技能の差がない状況の中で、練習試合で得た知識や考案した戦術を利用しながら、本番の試合で出たチームの課題を協働によってどう解決したり、改善したりしていくのかに注目していきたいと考えている。

スポーツ科学の授業

<生徒の感想>

- 3時間かけてスポーツ雪合戦を行った。最後のリーグ戦では、まず戦略が大事だということに気がついた。また、1試合2ゲームあるためそれぞれのゲームに違う戦略を考えなければならない。私のグループでは、最初相手の動向を見て各自が攻撃、というアバウトな戦略だった。その後試合を重ねていくごとに跳び箱の位置まで人がいたほうがいいのか、旗より後ろには下がらないなどグループ共通のルールを作り、より自分たちの戦略が働きやすいように相手の配置を考えるようになった。しかし、結果的には相手の戦略や勢いに負けてしまった。試合時間が短いため戦略を練ることが大事だと思った。サッカーやバスケットなど長い時間試合をやり続けるスポーツは、より緻密でレパートリーが多い戦略が必要ではないかと思った。